

「コレクション展を面白く魅せるひみつ」

参加
無料

2018年4月27日(金) 19:00 - 20:15

国立西洋美術館 講堂 (企画展示館地下2階)

定員 130名 | 当日 18:00 より本館 1階東口付近にて整理券を配付いたします。
場所が不明な場合は、インフォメーションでお尋ねください。

※ご参加には整理券が必要です。

※「ブラド美術館展」をご覧いただく場合には、チケットの購入が必要です。

※金曜・土曜日の夜間開館時(17時以降)の常設展の観覧料は無料です。

開催中の小企画展「マールグ画廊と20世紀の画家たち—美術雑誌『デリエール・ル・ミロワール』を中心に」は、国立西洋美術館の20世紀版画コレクションから成り立っています。今回は、展示を担当した当館研究員が本展のみどころをご紹介しますとともに、20世紀美術の優れたコレクションで知られる愛知県美術館とポーラ美術館からお二人の学芸員、副田一穂さんと東海林洋さんをお招きし、ミロやシャガールといった本展に登場する画家たちについてお話しいたします。また、お二人が普段、どのようにして所蔵作品の魅力を引き出し、コレクション展を面白く魅せるための工夫をしているのか?そのひみつを教えてください。これを聞けば、美術館がもっと面白くなる!?

3人の学芸員がお話します!

展示担当者/



久保田有寿
(くぼた・あず)

国立西洋美術館特定研究員。1986年東京都生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程(美術史学)修了。2016年より愛知県美術館学芸員、当館研究補佐員を経て2017年10月より現職。専門は西洋近代美術。愛知県美術館ではコレクション企画「日本で洋画、どこまで洋画?—高橋由一から現代画家まで—」(2016)をはじめとするコレクション展示を担当。当館では本展が初めての担当展。

コレクション展の/
魔術師

副田一穂 (そえだ・かずほ)

愛知県美術館学芸員。1982年福岡県生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻(美術史学)修了。2008年より現職、並行してあいちトリエンナーレ 2010、2013、2016のアシスタント・キュレーターを務める。専門は近代美術。主な企画に「マックス・エルンスト:フィギュア × スケープ」(2012)、「芸術植物園」(2015)など。美術手帖年間月評連載中。



美術館のおもしろさ/
伝えます



東海林 洋 (しょうじ・よう)

ポーラ美術館学芸員。1983年北海道生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程(美術史学)修了。2011年3月より現職。専門は西洋近代美術。主な担当展覧会に国立西洋美術館との共同企画「モネ、風景をみる眼」(2013)、「ピカソとシャガール 愛と平和の讃歌」(2017)など。2018年7月より開催予定の「ルドン ひらかれた夢: 幻想の世紀末から現代へ」を準備中。

※やむを得ない事情により、内容を変更または中止する場合がございますので予めご了承ください。

開催中

版画素描展示室(新館2階) 2018年2月24日(土)—5月27日(日)
マールグ画廊と20世紀の画家たち—美術雑誌『デリエール・ル・ミロワール』を中心に



ピエール・ボナール《大通り》
『インゼール・ポートフォリオ』より
1900年
国立西洋美術館

パリのマールグ画廊は、エメ・マールグとその妻マルグリットによって1945年に設立されました。20世紀を代表する芸術家たちと親交を結びながら、戦後フランスにおいて同時代美術を牽引する大画廊へと成長を遂げます。マールグ画廊は出版・印刷事業にも情熱を注ぎ、1946年に美術雑誌『デリエール・ル・ミロワール(鏡の裏)』を創刊します。『デリエール・ル・ミロワール』は同画廊で開催される展覧会に合わせて編集された展覧会カタログであり、また芸術家たちが同誌のために新たに制作したオリジナル版画が数多く収録されました。

本展は、マールグ画廊とゆかりの深い画家たちの中から、ボナール、マティス、ブラック、シャガール、ミロ、カンディンスキーの6人を取り上げます。画廊主マールグとそれぞれの画家たちとの関係に光を当てながら、『デリエール・ル・ミロワール』に収録されたリトグラフ(石版画)を含む約50点の作品を通して、新しい芸術表現を目指した20世紀美術の世界をご紹介します。

同時
開催

【上野の森バレエホリデイ】「アート・プロジェクションマッピング」2018年4月27日(金)、28日(土) 18:45-/19:30-/20:30(予定) 本館壁面に絵画とバレエをモチーフとしたオリジナルの映像を投影します。トークイベントご参加の前後にお楽しみください!



国立西洋美術館
The National Museum of Western Art